

答、白虎通に、周の世には、十一月を正月とす、これを曆家に天正月といふ、殷の世には、十二月を正月とす、人正月といへり、十一月は陽はじめて生る月なれば、冬至の日より、日かげのながくなると申也、陰陽道の曆數をかながへて、十一月に奉るなり、朔旦冬至と申は、十一月一日の冬至に、廿年に一度づゝまはるを申なり、いとめでたき祥瑞なれば、異國にも我朝にも、御門賀辭をうけ給なり、誠に目出度事にて侍る也。

〔東京夢華錄〕冬至 十一月冬至、京師最重此節、雖至貧者、一年之間、積累假借、至此日、更易新衣、備辨飲食、享祀先祖、官放關撲、慶賀往來、一如年節。

〔清嘉錄〕冬至大如年 郡人最重冬至節、先日親朋各以食物相饋遺、提筐擔盒、充斥道路、俗呼冬至盤節、前一夕、俗呼冬至夜、是夜人家更速燕飲、謂之節酒、女嫁而歸寧在室者、至是必歸壻、家家無大小、必市食物以享先、間有懸桂祖先遺容者、諸凡儀文加于常節、故有冬至大如年之諺、蔡雲吳猷云、有幾人家桂喜神、恩恩拜節、趁清晨冬肥年瘦、生分別尙襲姬家、建子春、案周遵道豹隱紀談、吳門風俗多重至節、謂曰肥冬瘦年、又云、互送節物、顏侍郎度有詩云、至節家家講物儀、迎來送去費心機、腳錢盡處渾間事、原物多時卻再歸、又江震志皆云、邑人最重冬至節、前夕名節夜、又崑新合志云、冬至節、親朋各相餽遺。

〔日本歲時記〕十一月 冬至は十一月の中なり、三至として一には陰極の至、二には陽氣始て至、三には日行南に至る、此故に至日ともいふ、冬至の前一日に至りて、陰氣長する事きはまり、日のみじかき至りなり、又夜長き事もきはまれり、日の南に至るもきはまれり、今日一陽來復して後陽氣日に長じ、日もやうやく長くなる、陽氣の始て生ずる時なれば、勞動すべからず、安靜にして微陽を養ふべし、閉戸默座して、公事にあらずんば、出行すべからず、又奴僕をも勞動せしむる事なかれ、易曰、雷在地中復、先王以至日閉關、商旅不行、后不省方、白虎通曰、此日陽氣微弱、王者承天理物、